



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後 1時40分
電話 56-0303(直通)・有線 8888 (直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

なんだかうれしい

Yahoo! 2学期

私の中にある
たくさんの心を



試してみたい

※写真と本文の関係はありません。

思わず手拍子! 音に心を重ねる

～立科小学校 音楽会から～

器楽合奏「世界に一つだけの花」(3年生)……。指揮者高橋先生を見つめる子どもたち。緊張感を集中力に変えていく子どもたち。ピアノの音に静かに耳を傾ける。一音に集中して息を吹き込みリコーダーの子どもたち。その重なる音の響きに触発されるように音を重ねていくオルガン、木琴の子どもたち。音を感じながら、躍動するパーカッション。音が重なり、迫力や心地よいリズム感に満ちていく会場。

ふっとその会場の一角、一年生の中から、その音楽全体にのめり込むように、小さな男の子が手拍子を始めます。気持ちよくて、嬉しくて、思わず、目の前のお兄さん、お姉さんの演奏に、自分も飛び込みたくなってしまったであろう男の子。やがて何の違和感なく、その男の子と同じ気持ちを共有したくなって、手拍子を始める周囲の子どもたち。その手拍子は後ろの学年、横の学年……。次々と伝わり、会場全体を包み込みます。

自分たちの演奏が会場の人たちを動かしていく。深く、温かく、人を動かしていく心地よさ、不思議さを思いながら、会場からのエネルギーをきちんと受け止め、楽曲への思いをさらに込めていく三年生の子どもたちの演奏。

仲間と「共に生きる日々」は、様々な活動を織りなす中で、ぶつかり合い、仲間や大人に対する不信感を時に生み出します。たくさんの涙を抱えながら、

同時に「共に生きる日々」は、そういう否定をどれほど重ねても、

仲間と「共に生きる日々」であるからこそ、

「信じてみようかな」「いいところあるじゃん」

「悪口はこれっきり」「仲良くしなくちゃ」

「学び合うっておもしろい」……。等々。

そんな肯定へと歩みだそうとする物語を創り出しながら、「ひとつになれる」心地よさを生み出し、味わう立科小学校の子どもたち。学校行事のもつ底力。

4年ぶりに一堂に会した音楽会。立科小学校の子どもたちと教師が、様々を乗り越え、生み出した物語の意味を大切にしていきたいと思っています。

